

プーチン時代の対北朝鮮政策: 軌跡と展望

第24回北東アジア学会学術研究大会
分科会E, 特別セッション1
「ロシアと朝鮮半島問題:現状と展望」
2018年9月30日11:10 - 13:10

加藤美保子
(人間文化研究機構/北海道大学)

1

報告の目的

- 2000年以降(第一期プーチン政権～現在)のロシアの対北朝鮮政策の特徴と変化を明らかにする。
- 地域安全保障問題としての「北朝鮮問題」に対するプーチン政権の戦略と制約について考察する。

2

報告の内容

- 1) 対外政策概念から見る北朝鮮の位置づけ
- 2) 実際の露朝関係の18年間
- 3) 第四期プーチン政権の戦略と制約
- 4) まとめ

3

「ロシア連邦の対外政策概念」のなかの朝鮮半島

2000年6月28日承認、改訂版「概念」

- CIS、欧州、米国の後にアジアに言及。
- APEC, ASEAN, 上海5への参加の活発化。
- 主導的な大国として中国とインドとの友好関係発展を目指す。
- 日本、東南アジア、イランに言及。
- ロシアにとって原則的意義を有するのは軍拡競争が激化し緊張や紛争の温床が続いているアジア情勢を健全化すること。
最大の懸念は“朝鮮半島情勢”。
- 「朝鮮問題解決へのロシアの対等な参加の確保、二つの朝鮮とのバランスのとれた関係維持に努力を集中」

4

• 2008年7月12日承認、改訂版「概念」

- 地域の意義：シベリア・極東経済発展プログラムの実現、テロとの闘いの分野での地域協力、文明間の対話。
- 主要な統合プロセス：APEC、ASEAN、ARF、SCO。
- 中国とインドを重視。とくに中国との戦略的パートナーシップを全ての分野で高める。
- 日本、中東諸国、東南アジア諸国との関係
- 原則的意義を有するのは、未だ緊張と紛争の源と大量破壊兵器拡散のリスクが残るこの地域に、平和で持続可能な環境をもたらすこと。「この努力は、朝鮮半島に集中される。DPRKおよび大韓民国と建設的関係を維持し、ソウルと平壤の対話を促進し、北東アジアの安全を強化する。」

5

• 2012年5月7日付大統領令605号「ロシア連邦の対外政策方針の実現について」

- 東シベリア・極東地域の社会経済発展を促進するため、地域統合プロセスへの参加を強化。
- 新たな安全保障協力アーキテクチャー形成のイニシアティブを推進。
- 中国との対等と信頼のパートナーシップおよび戦略的相互関係、インド、ベトナムとの戦略的パートナーシップを深化させ、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの互恵的協力を発展させる。

→東方シフトに向けた外交上の課題を列挙。北朝鮮への言及無し。

6

• 2013年2月12日付承認・改訂版「概念」

- 地域的優先順位の変化： CIS、欧州、米国、「北極圏」、アジア太平洋地域
- 中国との平等と信頼のパートナーシップおよび多国間枠組みでの外交的共同行動を発展。
- インド、朝鮮半島、日本、モンゴル、ベトナム、ASEAN諸国、豪州、ニュージーランド
- 朝鮮半島情勢：「善隣友好と相互協力の原則に基づいて北朝鮮と韓国との間の政治対話を支援していく」（従来の方針）

7

• 2016年11月30日付承認・改訂版「概念」

- クリミア併合後の国際情勢の変化等に応じた改訂。
- アジアでの国別優先順位： 中国、インド、モンゴル、日本、北朝鮮、韓国、ベトナム、インドネシア、タイ、シンガポール、マレーシア

記述が変わった部分

- 日本との善隣友好・互恵的協力を「アジア太平洋地域の安定と安全の確保」という大きな目標の下におく。
- 北朝鮮、韓国との関係
 - ✓ 伝統的な友好関係を維持しつつ、朝鮮半島における対立のレベルを下げ、緊張を緩和することを模索。
 - ✓ 政治対話の進展によって、和解と南北間の協力に到達。
 - ✓ 一貫して核の無い朝鮮半島の地位を支持してきたし、あらゆる手段で非核化を支援する。これらの目的を達成する手段は六者協議。
 - ✓ ロシアは北東アジアの平和と安全を維持するためのメカニズム創設の努力を続け、また地域内で経済協力を拡大することも目指す。

8

公式文書の記述から見えること

- 地域的優先度: アジア・太平洋は外交正面のなかで最も低い。
 - 地域統合プロセス: 北朝鮮が参加しているのはARFのみ。
 - 地域秩序: 朝鮮半島を緊張や紛争の源として位置づける。
核ミサイル開発問題解決への対等な参加を求める。
 - 二国間関係: 2016年版ではじめて北朝鮮に言及
 - 対朝鮮半島政策: バランス外交 → 建設的関係の維持 → 伝統的友好を維持しつつ、緊張緩和を目指す。
 - 核問題: 政府として一貫して核のない朝鮮半島を支持。
 - 南北関係: 政治対話の促進を支持。緊張緩和、和解へ。
- 北東アジア地域の安全保障環境の安定化とそのプロセスへの関与の観点から朝鮮半島、とくに北朝鮮を見ている。平和と域内経済協力の拡大は結果的にロシア極東開発に恩恵をもたらす。しかし、東方シフトにおける重要なパートナーとしては位置づけられていない。

9

実際の露朝関係の18年間

- 1) 関係回復期 (2000 - 2007)
プーチン-金正日
- 2) 六者協議停滞 (2008 - 2010)
メドヴェージェフ-金正日
- 3) 経済的関心の高まりと露朝再接近 (2011-2015)
メドヴェージェフからプーチンへ
金正日から金正恩へ
- 4) 核・ミサイル危機の高まり (2016年～)
プーチン-金正恩

10

① 関係回復期(2000年~2007年)

- 第一期プーチン政権発足(2000年5月~)
- 沖縄G8での外交デヴェューを前に、国家元首として初めて北朝鮮を訪問し、金正日と会談(2000年7月)。2001年、2002年と3年連続で首脳会談実施。
- **経済協力**
北はソ連の支援で作られた設備の近代化に関心。
→南北鉄道を再建しシベリア鉄道に連結、
火力発電所、冶金コンビナート、石油加工場
→ロシアに原子力発電所建設の支援要請(2001)
→北朝鮮は経済改革を開始。2002年8月ロシア極東を視察。
2003年6月、鉄道の連結式(2ルート)
- **ミサイル問題**
モスクワ宣言(2001年8月4日)ではABM条約が戦略的安定と戦略的攻撃兵器削減の礎であることを確認。
一方、北朝鮮のロケット事業は平和的性格のもので、他国の脅威ではない。北朝鮮の主権尊重という主張も明記。
- **六者協議開始**
2002年末~2003年初頭 第二次核危機の開始
- 米国、中国との二者協議から、ロシア、日本、韓国を含めた六者協議へ
- ロシアが参加することになったのは金正日の努力(計算)によるところが大きい(Shin, 2014, p.133) 11



② 六者協議停滞(2008年~2010年)

- 六者協議は2003年8月から2007年3月まで全六回開催。
2005年9月に北朝鮮が核兵器および既存の核計画を放棄に合意する共同声明が発表される。しかし、米財務省によるバンコ・デルタ・アジア(BDA)との取引禁止の発表を機に、協議が停滞。
- 北朝鮮は米国とマカオ政府の措置に反発。2006年7月、日本海に向けて長距離、中距離弾道ミサイル発射。10月、初の核実験実施。
- 2009年4-6月テポドン発射。北による六者協議離脱。核実験←UN制裁強化。
- ロシアは2006年10月以降、10回の国連安保理制裁決議を支持。
しかし他方で、専門家は2005年の共同声明を米日韓が犯したことが北朝鮮を核開発に向かわせたとして非難。(V. Denisov)
- 米国と北朝鮮がBDAの北朝鮮資金の全額返還で合意した際、プーチンとプッシユの協議によりロシア中央銀行と極東商業銀行(ウラジオストク)を経由して送金。米朝の“仲介役”。

③ 経済的関心の高まりと露朝最接近 (2011年~2015年)

- ・2011年11月の北朝鮮による延坪島砲撃以来、ロシアは北の軍事行為に対する非難を強める。
 - ・他方で、メドヴェージェフ政権下(2008.5 – 2012.5)では金正日との首脳会談が再開され、経済協力が再び活性化。
- e.g. ハサン-羅人港間の鉄道をロシア鉄道の投資により改修し、2013年9月開通。(韓国の制裁により現在は三か国鉄道プロジェクトは中断)
- 2011年5月、フラトコフ対外情報局長官が訪朝。鉄道連結、朝鮮半島ガスパイプライン、送電事業について協議。
- 同年8月、金正日が沿海地方、アムール州、ブリヤート共和国視察。

13

④ 核・ミサイル危機の高まり (2016年~現在)

北朝鮮による軍事行動に対するロシアの立場

- ・最終的に朝鮮半島を非核化すべき。そのための対話の手段は六者協議、という点で2000年以降一貫した立場をとる。
- ・ただし、段階的な問題の調整が必要だとして、北朝鮮の核・ミサイル実験と米韓合同軍事演習を共に凍結すべきだということを中国と共同で主張。

米朝首脳会談

- ・モスクワは南北対話の進展および2018年6月に開催された米朝直接対話について、朝鮮半島周辺の緊張を緩和する具体的な一歩であるとし、関係諸国にこのプロセスへの支持を呼びかけてきた。

経済制裁

2018年9月、安保理でラブロフ外相が制裁緩和を求める。北朝鮮のミサイル発射・核実験停止を評価。

背景

ロシアにとっては国境を接する地域で軍事衝突が起きることは絶対に回避すべき。緊張緩和と安定確保が最優先。これは、南北朝鮮との関係において最終的に期待していることが、ロシア-中国-北朝鮮-韓国の国境地域協力の発展を含めた、安定的な経済協力の進展であるため。

14

ロシア国内の見方

ロシア共産党: 朝鮮労働党との党間関係を支援。北朝鮮をアジアにおけるもっとも重要な戦略的パートナーと見なす。

“大国ナショナリズム”の支持者: 冷戦期以来、世界政治を西側との終わりなき闘いとみなす。北朝鮮をアジアにおける反西側連携の図式として考える。

リベラル勢力: 全体主義で反西側の平壤の体制は、ロシアだけでなく世界の発展の妨げとなると見なす。このため、ロシア政府に平壤との全ての協力を断ち、より決定的な立場をとることを要求する。

不拡散の専門家: 北朝鮮の核兵器をロシアへの深刻な脅威とみなす。ロシアの朝鮮専門家も近い立場だが、3つのグループに分かれている。

①北の行動は論理的で、アメリカの行動に対する正当な反応をしている。(A. Vorontsov, A. Zhebin)

②中立的立場のグループ。北朝鮮は後退した情勢にもかかわらず耐久性を示しており、現体制が近い将来世界地図からなくなることは予想しにくい。ロシアは他の隣国同様、北朝鮮とも正常な関係を築くべき。紛争は北朝鮮を含めた交渉の場で平和的に解決すべきという立場。(V. Denisov, G. Toloraya) ③断固とした反北朝鮮の立場をとるグループ。北が西側から援助を得るために「脅威の商売」をしていることを批判。(V. Mikheev)

(A. Lukin, 2017の整理を参照)

15

まとめ:ロシアにとっての北朝鮮

	優先事項	制約
ロシア外交全体	大量破壊兵器の不拡散 核のない朝鮮半島	プロセスをめぐる対立 (米 vs 中ロ)
北東アジア地域秩序	非核化への手段として六者協議を重視 域内の平和と安全維持のメカニズムの創設 米朝・南北対話の促進	多国間協議におけるプレゼンスの低さ露呈。 多国間協議<米朝対話 中国
ロシア極東の経済発展と安全	北東アジア地域内で経済協力を拡大を志向。	金正恩体制の予見性の低さ 安保理制裁

16

主要参考文献

外交概念、露朝外交関係に関する主要文書は下記のサイトから参照。

ロシア大統領府ウェブサイト

<http://www.kremlin.ru>

ロシア外務省ウェブサイト

<http://www.mid.ru/ru/maps/cn/?currentpage=main-country>

その他

小泉直美『ポスト冷戦期におけるロシアの安全保障外交』志學社、2017年。

Beom-Shik Shin “Post-Cold War Russian Foreign Policy and the Korean Peninsula”, Tsuneo Akaha and Anna Vassilieva eds., *Russia and East Asia: Informal and Gradual Integration* (Routledge, 2014).

Gilbert Rozman and Sergey Radchenko eds., *International Relations and Asia's Northern Tier: Sino- Russia Relations, North Korea, and Mongolia* (Washington, D.C.: Asan-Palgrave Macmillan, 2017)
